



野生チンパンジーの世界 ～マハレ山塊国立公園 (タンザニア) の事例より～

伊藤詞子 (京都大学)

1



0. はじめに

- 長期研究: 「発見」から「無知の知」へ?
 - マハレ研究50周年
 - “Mahale Chimpanzees: 50 Years of Research”
Camabridge University Press, 2015年刊行予定
- 50年を経て
 - 分かったこと
 - 本当に分かったのか?
 - 50年でもまだ短い!

2

1. チンパンジー (PAN TROGLODYTES)

- 複雄複雌の社会（単位集団）で生活
- 絶滅危惧種（IUCN）
- ヒトに近縁

- 注目を集めてきたトピック
 - ・ 道具使用
 - ・ 狩猟・肉食
 - ・ 食物分配
 - ・ 「政治」的かけひき
 - ・ 「文化」

3

CONTENTS

- 0. はじめに
- 1. チンパンジー
- 2. 調査地紹介
 - 2.1 マハレ山塊国立公園
 - 2.2 マハレ研究小史
- 3. 長期研究
 - 3.1 チンパンジーをとりまく環境
 - 3.2 集団の歴史
 - 3.3 暴力性と平等性

4

2.1 マハレ山塊国立公園

- チンパンジーが生息する西側
 - タンガニーカ湖とマハレ山塊に囲まれる
 - タンザニアでも有数の多雨地帯
 - 低地林が発達
 - 明瞭な雨季と乾季

Itoh et al. 2012; Nakamura & Itoh in press. 1章;
Itoh in press. 11, 12章

5

2.2 マハレ研究小史

- 略史：配付資料 1
- 現地調査助手トンゲエ族
 - 動植物に関する豊富な知識

6

長期研究！

- 野生の動物とフィールド・ワーク
 - 生き方・人間を見るようにサルを見る
 - 人慣れ
 - 自然・社会環境の広さ、複雑さ
- 野生動物研究の鍵：
長期研究と地域間比較
- マハレ研究50周年！
- なぜ長期研究なのか：無知の知

7

マハレの研究

- 単位集団の発見
- メスの移籍（父系社会）の発見
- 道具使用、狩猟・肉食、食物分配
- 「文化」
- オス間の連合
- 単位集団の核としてのオス
- 子殺し
- メスの非社会性

8

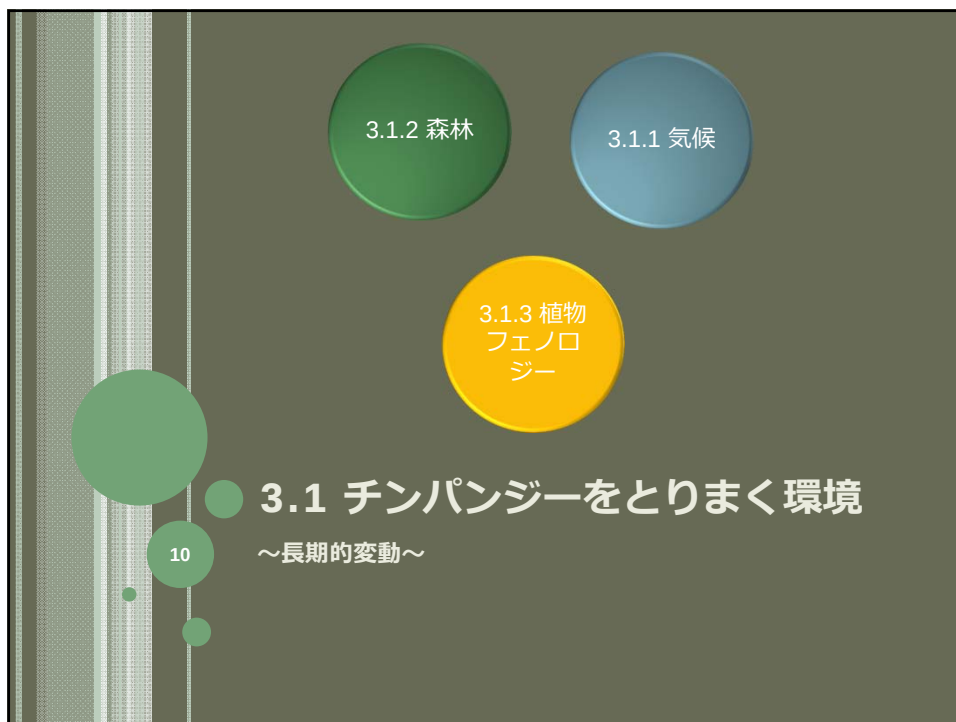


9

3. なぜ長期研究なのか

- 3.1 チンパンジーをとりまく環境
- 3.2 チンパンジーの社会と人口動態

This slide features a dark olive green background with a vertical light green textured bar on the left. A series of green circles of varying sizes are arranged vertically on the left side, with the number '9' inside one of them. The main text is in white.



10

3.1 チンパンジーをとりまく環境

～長期的変動～

- 3.1.1 気候
- 3.1.2 森林
- 3.1.3 植物
フェノロジー

This slide has a similar design to slide 9, with a dark olive green background and a vertical light green textured bar on the left. It features a series of green circles on the left, with the number '10' inside one. The main title is in white. Three colored circles (green, blue, and yellow) are arranged in a triangle in the upper right, each containing a sub-topic. The sub-topics are in white text.

3.1.1
気候

3.1.1 気候

- 気温
 - 最高気温：日平均からの大幅な逸脱（7~8℃）=温暖化兆候
 - 最低気温：さらに長期のモニタリングが必要
- 雨量
 - 全体としては減少傾向
 - 雨量の年間配分に変化=温暖化兆候？

Itoh et al. 2012 ; Itoh in press (11章)

11

3.1.2
森林

3.3.2 森林の変化

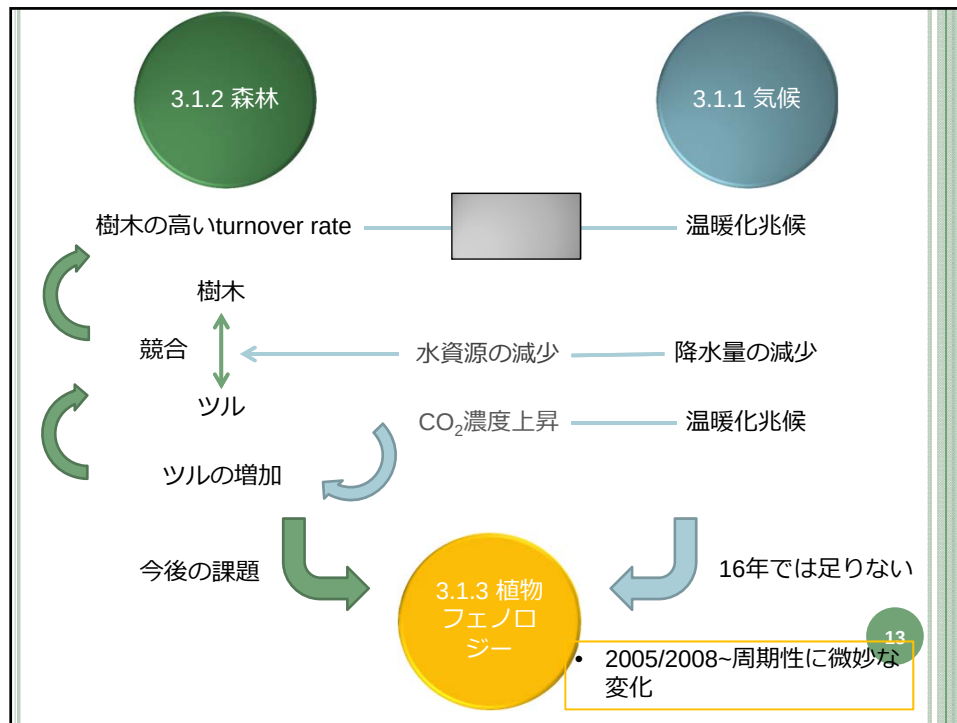
- 国立公園全体
 - 人間活動（焼畑等）の減少などに伴う変化
 - 公園境界付近における森林の減少（伐採、野火）

Itoh et al. 2012

- M集団遊動域内
 - 自然遷移
 - 高い樹木のturnover rate
 - 木本ツル植物の増加傾向

Itoh and Nakamura in press (12章)

12



3.2.1 離合集散社会システム

- マハレでの研究の開始：1965年
- チンパンジーの社会単位の発見：Nishida 1968；複雄複雌の単位集団（Unit-Group）
- 海外研究者の追認：Goodall 1973@ゴンベ

単位集団の全員が見渡せるようなひと所に集まることは滅多になく、4～5頭のワカモノやオトナと、何頭かのその子供たちからなるパーティを形成し、変幻自在に予測不可能な形で、メンバーシップが変わってゆく様子は、ゆるやかな地域集団はあっても、それらのメンバーが定常的に一つの集団を形成しているとは考えられなかった。

15

3.2.2 集団の歴史

- ゆっくり長い成長
 - 長寿：50才以上。何才までかはまだわからない。
 - 子育て：生物学的母親だけでなく、他個体も義母行動や養子取りなど、様々な形で関与。母親同士の信頼関係も重要。
- 人口動態
 - Nishida et al. 2003; Nakamura in press. 6章
 - 老人倶楽部
- 集団が辿ってきた歴史（含む人口動態、隣接集団の動向）は、社会行動、社会関係、社会構造を変えうる。
- 暴力性から平等性・対等性へ

16

